

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2023 年 1 月

「神のむすこ娘たち」「神の小羊（I）」「教会と残りの民（V）」「白菜ロール」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「神の小羊 (I)」

4

聖書の教え

朝のマナ

「神のむすこ娘たち」

7

Sons and Daughters of God

現代の真理

「教会と残りの民 (V)」

39

Good Way Series- 正道 -

力を得るための食事

「白菜ロール」

44

レシピ

お話コーナー

「神が人を造られる (II)」

46

聖書物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖繩集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2022 年 11 月 9 日

編集&発行 SDA 改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Sakusabe on Front page; Sermon View on
page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

信仰によってキリストに共鳴する

父の栄光の中からおいでになった神が、身をかがめて失われた者を救われる、このことはあがないについての実物教訓であった。それはまた弟子たちの使命をあらわしていた。キリストのしもべたちの生活は、山の上でイエスといっしょに霊的な光の中にいることにだけ費やされるのではない。下の平地には彼らの働きがある。…

九人の弟子たちは、自分たちの失敗というにがい事実についてまだ考えこんでいた。彼らはもう一度イエスと自分たちだけになると、「わたしたちは、どうして霊を追い出せなかったのですか」とたずねた（マタイ 17:19）。イエスは彼らに答えて、「あなたがたの信仰が足りないからである。…キリストに一層深く共鳴するのをさまたげていた不信仰…が、暗黒の勢力との戦いに彼らを失敗させたのであった。…キリストのみことばを瞑想することと祈ることによって信仰を強めようとしないうで、彼らは、落胆と個人的な不平に心を奪われていた。…

このような戦いに成功するためには、彼らはもつと異なった精神で働きにたずさわらねばならない。…（各時代の希望中巻 203,204）

今日、同じまちがいをしている者が多い。そのような人びとは、自分たちの義務を、はっきりと二つに分けている。第一は、神の律法に定められた、大事なものである。その次は、彼らが小さいと考えている事であって、ここにおいて、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」という戒めが、無視されている。この方面のことは、彼らの気の向くままに、衝動的に行なわれている。こうして、品性はゆがめられ、キリスト教は、誤解されているのである。…

神と接触していながら、人間と接触しないということはできない。宇宙の王座にすわっておられるキリストのなかには、神性と人性が結合しているのである。キリストに連なるものは、愛という金の鎖によって、同胞と結ばれているのである。こうして、キリストのあわれみと同情とは、わたしたちの生活にもあらわれてくる。…

愛と同情心のあるところ、他人を祝福し高めようとする心のあるところには、神の聖霊の働きがあらわされる。（キリストの実物教訓 359-362）

これが初代の教会にみなぎつていた精神であった。聖霊の降下があつてから、「信じた者の群れは、心をついにし思いをつにして、だれひとりその持ち物を自分のものだとして主張する者がなく、……彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった」。「使徒たちは主イエスの復活について、非常に力強くあかしをした」（使徒行伝 4:32,34,33）。（各時代の希望中巻 371）

「そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである。」（ヘブル 7:25）

迷子の羊 (I)

「あなたがたのうちに、百匹の羊を持っている者がいたとする。その一匹がいなくなったら、九十九匹を野原に残しておいて、いなくなった一匹を見つけるまでは捜し歩かないであろうか。そして見つけたら、喜んでそれを自分の肩に寄せ、家に帰ってきて友人や隣り人を呼び集め、『わたしと一緒に喜んでください。いなくなった羊を見つけましたから』と言うであろう。よく聞きなさい。それと同じように、罪人がひとりでも悔い改めるなら、悔改めを必要としない九十九人の正しい人のためにもまさる大きいよろこびが、天にあるであろう。」(ルカ 15:4-7)。

みなさんは、大変ななくしものをしたことがありますか？わたしはお金や宝石のことを話しているのではなく、あなたにとって本当に特別な人のことについてお話ししているのです。わたしの長男が小さかったとき、彼には家族で出かけるときに、探検してもいいと言われる前に走り出してしまう習慣がありました。ある日、サン・パウロにある一番大きなモールへ家族で出かけていたときに、彼のこの習慣がわたしに恐ろしい喪失感を味わわせることになりました。わたしの妻がトイレに行くと言ったとき、小さいこの子が自分も行きたいと言いました。わたしが彼らを待っている間、わたしは自分も行こうと思いました。わたしが待ち合わせ場所に戻ってみると、二人はまだ戻ってきていませんでした。しばらくして、わたしの妻だけが一人で戻ってきました。彼女はわたしを見てびっくりして、ほとんどわたしと同時に尋ねました、「あの子はどこ？」彼女はそれから、その子がわたしに会いに行きたいと言ったと説明しました。彼がわたしと別れた場所にわたしがいないのを見て、彼は自分で探しに出かけたのでした。想像してみてください、二人のまだ新米の両親が、日曜日の午後に混雑したモールで自分たちの息子をさがし歩く絶望感を。この物語は、親が買い物をする時に子供たちをおいていく遊び場をわたしたちが思い出したために、ハッピーエンドでした。彼はどれほどこの場所が好きだったことでしょう。わたしたちが少し前にこの場所の前を通り過ぎていたので、彼をそこに探しに行くことにしました。なんと、彼はそこにいました。しかし、わたしたち二人が心の中に感じたしめつけられる思いは、二度と経験したくないものです。彼が無事であることをを見つけるまで、それは恐ろしい気持ちでした。言うまでもなく、お出かけの喜びは終り、残っていたのは、残っていたはず

かな精神力をふるいおこして、そこを去り、家に帰ることでした。

イエスは、大きな価値を持つものをなくしてしまった青年についてのたとえを語られました。それは自分の動物の群れから迷い出てしまった一匹を発見した羊飼いの話でした。もしわたしたちが今日のわたしたちの生活からたとえとすれば、かわいがっているペットを失うようなものとも言えるでしょう。あなたは近所のあちこちの店のかべに、迷子になった動物の写真とペットがどのあたりにいるか情報を寄せてくれた人に支払う現金の報酬をのせたポスターをはろうとすることでしょう。一日彼は自分の羊と過ごした後、家に帰ろうとします。彼は囲いにむかって羊を導き、いなくなっているものがないか確認を始めます。最後の一匹が囲いに入るとき、彼は一匹足りないことに気がつきます。彼はしかもどの一匹がいなくなったのかがわかります。彼がいたずらっこの羊の後を追いかけて走るのに慣れていたかもしれません。そして今、彼はどうするでしょうか？遅い時間になっており、肉食動物が獲物をさがしてうろついていました。小さい羊は傷をうけたでしょうか。穴に落ちたでしょうか。危険な動物がそれを先に見つけてしまったでしょうか。

羊飼いは考えなおしたりはしませんでした。彼は九十九匹を安全な囲いの中に残して、迷子の羊を救い出そうと夜にたち向かっていきました。時は遅く、彼は月明りだけを頼りに行かなければなりません。彼は迷子の羊がそのあたりにいないかとの希望をもって、一日中歩いた道をすべてたどっていきます。

イエスが決して、迷子の犬や、迷った雄牛、あるいは家から出て行ったねこのたとえをお用いにならなかったことに注意を払うと興味深いです。これらの動物にはするどい方向感覚があって、どのように家に帰ればよいかを知っています。しかし、羊の場合はそうではありません。これらの動物は迷子になっていなくなると、だれかが彼らをさがし、囲いに連れ帰るのでないかぎり、本当にいなくなってしまうのです。雌羊は視力が弱く、彼らの嗅覚はするどくありません。そして雌羊にはかぎづめがなく、逃げるための力も機敏さもありません。完全にその飼主の保護にたよりっきりなのです。キリストがわたしたちを迷子の羊にたとえられたこの物語を語られた理由はこれだったのでしょう。神から迷い出た人間をこれほどよく描写できるものはありません。彼らは自分自身では戻ることができないのです。彼らは希望のない状態にあります。

アダムとエバがまだエデンにいたときに神の戒めを犯しました。彼らはただちに聖なるご臨在から逃げだし、もし神が迷子になったご自分の子らをさがされる

すばらしい恵みが表されなかったならば、決して戻ることはなかったことでしょう。神が創造主の園でアダムにお尋ねになった質問、「あなたはどこにいるのか」(創世記 3:9)、天が罪の結果失われたすべての人類に対して天が表す大きな関心を明らかにしています。

迷子の羊のたとえは、この惑星にいるすべての罪人と、また地球そのもの、すなわち神聖な律法の違反を通して神から分離している宇宙の唯一の惑星に言及しています。

このたとえでは、迷子になった罪は羊自身にあります。囲いから追い出されたわけではなく、迷い出る理由もなく、離れたことを正当化するような落ち度が羊飼いにあったわけではありませんでした。ただ責めを負うべきなのは羊だけでした。わたしたちが自分の過ちを人のせいにする悪い習慣を持っているかぎり、わたしたちの問題の源はわたしたちの悪い選択だというのが真実なのです。

わたしたちの不幸を他の人のせいにすることは、人生の初期、幼少時代に形成する習慣です。もし子供が何か禁じられていることをしたり、何か高価なものをこわしたりすると、すぐに「それお兄ちゃんだよ(あるいは時に、お姉ちゃん)」と言います。生徒が教室でふざけるときに、教師が彼をしかると、彼は「僕ではなく、だれだれさんが始めたんです」と言います。神がアダムに、禁じられた実を食べてはならないという戒めに従わなかったのかとお尋ねになったとき、彼はすぐに自分自身ではなく、神のせいにしました。「人は答えた、「わたしと一緒にしてくださったあの女が、木から取ってくれたので、わたしは食べたのです」(創世記 3:12)。わたしたちは自分の責任を逃れるために被害者の役をするのが好きです。わたしたちが感情的な発達をとげているという最初のしるしの一つは、自分が悪いことをしたときに責めを自分で受ける時です。多くの人は一生涯この教訓を学ばずに過ごします。ですから、心に留めていましょう:わたしたちの問題、罪、過ち、欠点は、わたしたちの責任であり、他の人のせいではないのです。

しかしながら、愛する献身した羊飼いは、99 匹を囲いに残して、迷子をさがすという危険でリスクの大きい働きを引き受けてくださるのです。

この物語は、イエスの大きな愛と犠牲を描写しています。このお方は全天の宮で栄光に囲まれ、礼拝の中心であられましたが、墮落した状態の人性をとり、迷子の羊をさがす働きを引き受けるために、完全に純潔な天の環境を後にすることのためられませんでした。

神のむすこ娘たち

Son and Daughters of God



1 月

わたしたちは神のむすこ娘である

神は自分のかたちに 人を創造された

「神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。」(創世記 1:27)

全天は世界と人の創造に、深く喜びに満ちた関心を示した。人類は、新しく区別された種類の存在であった。彼らは「神のかたちに」造られ、地に住まわせるというのが創造主のご計画であった。彼らはあらゆる力の源であられるお方から力を受けつつ、天と密接な交わりのうちに生きるのであった。神にささえられて、彼らは罪のない命を生きるのであった。(ビュー・アンド・ハルド 1902 年 2 月 11 日)

きよい夫婦は、父なる神の保護を受ける子供たちであるばかりでなくて、あらゆる知恵に満ちた創造主から教えるを受ける生徒でもあった。彼らは、天使たちの来訪を受け、何の隔てもなく、創造主と交わることを許された。……目に見る宇宙の神秘—「知識の全き者のくすしきみわざ」—は、彼らにとって、つきない教えと喜びの泉であった。過去六千年の間、人間が研究続けてきた自然の法則と作用は、万物の創造者であり、維持者である無限のおかたによって、彼らに知らされた。彼らは、木の葉、草花、樹木などと語り、それぞれのいのちの神秘を学んだ。アダムは、あらゆる生物、水中に遊ぶ巨大な海魚から、日光の中にいる小さな昆虫にいたるまで熟知していた。彼は、おのおのに名を与え、すべてのものの習癖や性質によく通じていた。もろもろの天の神の栄光、整然と運行する無数の世界、「雲のつり合い」、光と音、昼夜の神秘などのすべては、われわれの祖先の研究の課題であった。(人類のあけぼの上巻 26,27)

神は人をすぐれた者として創造された。人だけが神のかたちに形造られたのであって、神性にあずかることができ、また創造主と協力して、そのご計画を実行する能力があるのである。(ビュー・アンド・ハルド 1885 年 4 月 21 日)

神の子と呼ばれるために

「わたしたちが神の子と呼ばれるためには、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい。わたしたちは、すでに神の子なのである。世がわたしたちを知らないのは、父を知らなかったからである。」(ヨハネ第一 3:1)

ヨハネがキリストの愛について考えたとき、「わたしたちが神の子と呼ばれるために、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と叫ぶにいたった。

人は王家の一人を見るのを特権だと考えて、何千もの人がその人を見るために非常に遠い道りを出かける。至高者のむすこ娘になるということは、これにまさってどれほど大きな特権であろうか。王家に入れていただくこと以上に大きな特権をわたしたちに与えることができるだろうか。

神のむすこ娘となるためにわたしたちは世から分離しなければならない。「彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ」、そうすれば「わたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしのむすこ、むすめとなるであろう」と主は言われる。……

わたしたちの前には天国、勝ち取るべき命の冠がある。しかし報いは勝利者だけに与えられる。天国を手に入れる者は義の衣にまといわなければならない。「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」キリストのご品性には、どのような種類の不一致もなかった。そしてこれがわたしたちの経験でなければならない。わたしたちの生涯はキリストの生涯を支配した原則に支配されなければならない。(原稿 28、1886 年)

罪ある人類のために払われた犠牲の完全さを通して、キリストを信じ、この方の許へ来る者は、永遠の滅びから救われることができる。……

たとえどんなにタラントがあり、教養があり、名誉があろうと、敵に惑わされるあまり、キリストを受け入れることは自分を低めることだと考えることがないようになろう。すべての人は敬神と感謝の気持ちをもって天を見上げ、「わたしたちが神の子と呼ばれるために、どんなに大きな愛を父から賜わったことか、よく考えてみなさい」と驚嘆して叫ぶべきである。(ユース・インストラクター 1894 年 9 月 27 日)

キリストが現れる時、 わたしたちは彼に似るものとなる

「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかし、わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである。」(ヨハネ第一 3:2)

品性の改変が、何か奇跡的な働きで、イエスが力と偉大な栄光をもって天の雲に乗って現れる時にわたしたちに生じることを期待して座り込んでいてはならない。若い友人たちよ、そうではなく、わたしたちは審判を受けねばならないのであり、そして猶予の期間がこの世でわたしたちに与えられているのは、将来の不朽の命のために品性を形造ることができるためである。(ユース・インストラクター 1893 年 8 月 24 日)

だれも利己心や自己称揚、自己放縦がキリストのみ霊と共存できると考えないようにしよう。真に改心した一人ひとりの男女には、わたしたちが正しく見積もることのできない程の責任が負わされている。世の方法や格言は、天の王のむすこ娘が身につけるべきものではない。(教会への証 5 巻 410)

世から分離すると、わたしたちは至る所で困難に出会う。しかし、ここにわたしたちのための慰めがある、「愛する者たちよ。わたしたちは今や神の子である。しかしわたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現われる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている。そのまことの御姿を見るからである」。(原稿 28、1886 年)

わたしたちは自分の言葉と働きによって、自分に課されている大きな責任を自覚していることを示すべきである。わたしたちの光がはっきりと輝き、それによってわたしたちが日々の生活の中でみ父に栄光を帰していること、またわたしたちが天とつながっており、イエス・キリストとの共同相続人であることを他の人々が認めることができるべきである。(教会への証 4 巻 16)

み父とまたそのみ子イエス・キリストと親しく交わるということは、気高くされ、高められ、言い表わせないほどの喜びと満ちみちた栄光にあずかる者になるということである。食物や衣服、社会的地位や財産にはそれぞれ価値がある。しかし、神とのつながりがあるということは……価値のつけられない価値がある……。そして「わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない」けれども「わたしたちの生命であるキリストが現われる時」「わたしたちは彼に似るものとなる」のである。(教会への証 4 巻 357)

キリストがきよくあられるように きよめられる

「彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように、自らをきよくする。」(ヨハネ第一 3:3)

人が、比類のない愛を正しく理解できるようにと、キリストは人の思いをすべての不純物から清めることによって、高め、精錬したいと思っておられる。(世界総会冊子 4、1899 年)

悔い改めと信仰と良い働きを通して、人は義なる品性を完成し、またキリストの功績を通して神の子となる特権を主張することができる。心に受け入れ、大事にされる神の真理の原則は、わたしたちが到達できるとは思ってもよらなかった道徳的卓越さの高みにまでわたしたちを至らせる。……「そして彼についてこの望みをいだいている者は皆、彼がきよくあられるように自らをきよくする」。(教会への証 4 巻 294)

心の聖潔と生活の純潔さは、キリストの教えの大きな主題であつた。山上の垂訓の中で、祝福されるためにしなければならないこと、またしてはならないことを具体的に挙げた後で、キリストは「それだから、あなたがたの父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と仰せになる。完全、聖潔、一これに満たないものは何一つ神が人に与えられた原則を実行するにあたって人に成功をもたらすことはない。この聖潔がなければ、人の心は利己的で罪深く邪悪である。聖潔はその所有者を実り多い者とし、あらゆる良いわざに豊かな者とする。このような人は良い行ないをするのに倦み疲れたり、この世における昇進を求めたりすることが決してない。そうではなく、天の至高者が聖化された聖なる民をご自分のみ座へと高めてくださるときに、このお方によって昇進させていただくことを望み見ている。……心の聖潔は正しい行動を生み出す。(レビュー・アヴ・ハヴド 1886 年 9 月 7 日)

神がその領域で清くあられるように、人も自分の領域で清くなければならない。そしてもし栄光の望みであるキリストが心の内に形造られるなら、人は清いのである。なぜなら、その人はキリストの生涯を真似、そのご品性を反映するからである。(福音宣伝者 366)

クリスチャン品性の王子にふさわしい品位は、太陽のように輝きいで、キリストのみ顔から輝き出る光線は、このお方がきよくあられるように自らをきよくした人々の顔に反映する。(教会への証 4 巻 357)

心の純潔は生涯の純潔へと導く。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1881 年 4 月 21 日)

神はわたしたちが生きられるように 御子を死ぬためにつかわされた

「わたしたちが神を愛したのではなく、神がわたしたちを愛して下さって、わたしたちの罪のためにあがないの供え物として、御子をおつかわしになった。ここに愛がある。」(ヨハネ第一 4:10)

贖いの中で神は犠牲、すなわち、はかりしれないほど広く深く高い犠牲のうちに、ご自分の愛を表された。「神はそのひとり子を賜わったほどにこの世を愛して下さった……」。

アダムの罪が人類を希望のない悲惨な状態に陥れたとき、神はご自身を墮落した人類から切り離すこともおできになった。彼らを罪人として当然の取り扱いをなさることもおできになった。憤りの杯をこの世界に注ぐようにと天のみ使いたちに命じることもおできになった。このお方はご自分の宇宙からこの暗いしみを取り除くこともおできになったのである。しかし、このお方はそうはなさらなかった。墮落した人類をみ前から消し去る代りに、もっと近づいてこれたのである。このお方はご自分の御子をわたしたちの骨の骨、肉の肉となるために与えて下さった。「言は肉体となり、わたしたちのうちに宿った。……めぐみとまこととに満ちていた」。人に対する人としてのご自分の関係を通してキリストは人を神へ近く引き寄せられた。神性を人性という衣でおおい、全宇宙の前に、墮落したことのない世界の前に、神がどれほど人の子らを愛しておられるかを示された。

人に対する神の賜物は、あらゆる計算を越えていた。何一つ差し控えられたものはなかった。神は、人類に対してもっと多くのことができたはずだとか、もっと多くの愛をあらわすことができたはずだとかと、言われることをお許しにはならなかった。キリストという賜物の中に神は全天をお与えになったのである。

世界が造られる前にみ父と共におられた至高者が、人類を高めるために屈辱を甘受された。わたしたちが天のみ座を見ることができるよう、またそのみ座の上に、高く掲げられたお方、すなわち人間の姿をとって、苦しみ、むちで傷つけられ、わたしたちの不義のために砕かれるためにこの世に来られたお方を見上げることができるようにと、預言は幕をあげる。(原稿 21、1900 年)

神はこうのように人に対するご自分の愛を示された。神は、ご自分の道徳的なかたちを人のうちに回復することができるようにと、キリストと共に全天をお与えになった。……莫大な神の恵みがすべての者のために備えられている。(世界総会冊子 4、1899 年)

力は神の子となるため、 わたしたちに与えられた

「しかし、彼を受け入れた者、すなわち、その名を信じた人々には、彼は神の子となる力を与えたのである。」(ヨハネ 1:12)

神の子となるというのはわたしたちが自分自身で手に入れるものではない。キリストを自分の救い主として受け入れる者に対してだけ、神の息子、娘となる力が与えられる。罪人は自分自身の力で、罪から抜け出すことはできない。そうなるためにはもっと高い権力を持ったお方を見なければならない。ヨハネは「見よ、世の罪を取り除く神の小羊」と叫んだ。キリストだけが心を清める力を持ってもらえる。この方の許しと受け入れを求め続けている者は、ただ「わたしは手に何も持っていません。ただあなたの十字架にすがりつきます」と言うことができるだけである。しかし息子になるという約束は「その名を信じる」すべての者に成就する。信仰をもってイエスのもとに来る者はみな許しを受ける。(レビュー・アンド・ヘアード 1903 年 9 月 3 日)

キリストの宗教は心を改変する。世俗的な思いを持っている人を天国のことを思う人にする。この感化のもとに利己的な人は無我の人となる。それがキリストの品性だからである。正直でなく、たくらみを持っている人は正直になる。自分にしてもらいたいように他の人々にするということが彼にとって第二の性質となる。不品行な者は不純な者から純潔な者へと変わり、正しい習慣を形造る。キリストの福音がその人にとって命から命にいたる香りとなるからである。(サザン・ウォッチマン 1905 年 2 月 7 日)

神は、キリストによって、ご自分をあらわし、「世をご自分に和解させ」ようとなされた。人間は罪を犯して墮落したために、自分の力では、清く恵み深いご性質の神と調和することができなくなった。しかし、キリストは、律法の罪の宣告から人間を贖ったあとで、上からの力を人間に与えて、人間の努力とそれを結合させることがおできになるのであった。こうして神に対する悔い改めとキリストを信じる信仰によって、アダムの墮落した子らは、もう一度「神の子」となることができるのであった。(人類のあけぼの上巻 54)

魂はキリストを受け入れる時、キリストのような生活を送る力を受ける。
(キリストの実物教訓 294)

教会は 神が最大の配慮をされる対象

「また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」(エペソ 5:27)

教会は弱々しく欠陥があっても、地上においてキリストが最高の関心を払われる唯一の対象である。このお方は教会をたえず配慮をもって見守り、聖霊によって強めておられる。わたしたちは教会のメンバーとして、このお方が自分の心に感銘を与え、自分を通してその栄光のために働かれるのにまかせるのだろうか。(原稿 155、1902 年)

キリストはご自分の教会を愛しておられ、キリストのような品性を発達させるための力を求める人々に、必要な助けをすべてお与えになる。そしてこの方の愛は弱々しいものではない。人々の罪に仕えたり、彼らが間違った進路をとり続けている間、彼らに繁栄を与えたりはされない。信仰深い悔い改めによってのみ彼らの罪は許されるのである。なぜなら神は悪をご自分の義の衣でおおうことはされないからである。神は信仰深い奉仕にほまれを与えられる。自分たちの同胞に神の正義と憐れみそして愛をあらわす人々を豊かに祝福される。神のみ業にたずさわっている人々に、真にへりくだって、み足の跡に忠実に従い、永遠にわたって生きている聖なる原則を大切にしながら、神のの前に歩かせなさい。言葉にも行動にも、天で守られているその律法に自分が従っていることを示させなさい。(原稿 52、1901 年)

教会はキリストの恵みに富んだ宝庫であり、教会を通して神の愛がついには「天上にあるもろもろの支配や権威」に対してさえも十分明らかに示されるのである。……教会は神が反逆した世に持つておられる神のとりでであり、神ののがれの町である。……教会は神の恵みの舞台であり、そこで神は人々の心を変える力をあらわすことをお喜びになるのである。(患難から栄光へ上巻 1－4)

教会に対する神の愛は無限であり、ご自分の嗣業に払われる配慮は止むことがない。(世界総会冊子 3、1900 年)

わたしたちは神の息子・娘

「わたしはあなたがたを受けいれよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。」
(コリント第二 6:17, 18)

宇宙の創造主があなたに愛情にみちた父として話しかけられる。……天におられるあなたのみ父は、あなたを王家の一員にすると申し出られる。それはみ父の非常に偉大な尊い約束を通して、あなたが神のご品性にあずかる者となることができるということである。……あなたが純潔で罪のない天使の品性、またあなたの贖い主キリストのご品性にあずかるようになればなるほど、神の特徴をますます鮮やかに身に帯び、世に対して似ている点はますます薄らいでいく。(教会への証 2 巻 44)

「わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしはあなたがたの父となり、あなたがたはわたしのむすこ、むすめとなるであろう……。」ここに何という約束が従順という条件に伴っていることであろうか。……あなたに対して父となると約束して下さっているのである。ああこれは何という関係であろうか。地上のきずなよりもはるかに気高く、はるかに聖なるきずなである。あなたが犠牲を払うなら、父や母、姉妹、兄弟、妻や子をキリストのために捨てなければならないなら、あなたには友がいないのではない。神はあなたをご自分の家族の養子として下さり、あなたは王家の一員、もろもろの天を支配しておられる王の息子、娘となるのである。(教会への証 1 巻 510)

あなたがたが神を父と呼ぶならば、あなたがたは、自分が神の子であることを認め、神の知恵に導かれ、すべてのことにおいて服従することを承認したのである。それは神の愛が変わらないものであることを悟ったからである。あなたがたは、自分の人生に対する神のご計画を受け入れる。神の子として、あなたがたは、神の名誉、神のご性格、神の家族、神の働きをあなたの最高の関心の対象とするのである。父なる神および神の家族のすべての者とあなたがたとの関係を認め尊ぶことはあなたがたの喜びとなってくる。(祝福の山 131, 132)

神はわたしたちのみ父、優しい親であり、ご自分の霊的子女を気遣っておられる。ご自分に従順なすべての者の保護者、相談相手、導き手、そして友であると誓っておられる。(手紙 79, 1898 年)

子であれば相続人

「もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。」(ローマ 8:17)

イエス・キリストと契約を結んでいるすべての者は、神の子たる身分になる。彼らはみ言葉の再生する力によって清められ、天使は彼らに仕えるよう命じられる。彼らは父と子と聖霊の名によってバプテスマを受け、地上における神の教会の活動的なメンバーとなることを誓う。彼らは世的な望みという誘惑すべてに対して死ななければならない。そして会話においても信心深さにおいても、み霊による清めを通して神のために生きた感化を及ぼさなければならない。

「神の相続人であって……キリストと共同の相続人」とは、なんと高められ、高貴にされた立場であろうか!世とは分離してはっきりと異なり、サタンの悪賢いわなから守られているとは!バプテスマの誓いによって神に従うと公言した者は、悪に対抗して立つことを誓ったのである。魂の敵は公言した者たちの思いを墮落させようとあらゆる悪知恵を用いて働く。敵は主のための彼らの奉仕に自分の方法を混ぜこもうとする。しかし彼らが命令に聞き従うなら安全である。「主にあって、その偉大な力によって強くなりなさい。悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身をかためなさい。」(原稿 57、1907 年)

神が設立された嗣業での働き人として受け入れられることにより、人はこの方のご計画における共同相続人とされることによって誉れを受ける。……神の使命によりわたしたちの贖い主である主は神の相続人であり、魂を救う働きにおいてこのお方と共に働く者たちは主との共同相続人である。……勝利者になるということとは、永遠の重い栄光をあふれるばかりに得る人々の列に入れられるということである。(手紙 49、1896 年)

神の子と呼ばれる以上に、どのように大いなる名誉を求めることができるというのであろうか。神の相続人であり、キリストとの共同相続人である者にもたらされるもの以上に、どのようなもつと大いなる地位を得、もつと大いなる嗣業を見つけることができるのであろうか。(ユース・インストラクター 1892 年 12 月 8 日)

神は求めない先から わたしたちに必要なものをご存知である

「あなたがたの父なる神は、求めない先から、あなたがたに必要なものはご存じなのである。」(マタイ 6:8)

聖なる芸術家であられる神が、一日でしばむ草花にやわらかい様々な色をお与えになったとすれば、ご自分のかたちに創造された人間に対してどれほど大いなる心遣いをされることであろうか。……人が神を愛し、この方に服従して自分の分を果すなら、神は彼らのあらゆる欠乏に備えて下さる。……人はどれほど念じて、だれも自分の身長を一キュビトすら伸ばすことはできない。明日と明日の必要を思いわずらうのは理に合わないことである。あなたの義務を果し神を信頼しなさい。神はあなたが何を必要としているか知っておられるからである。……神は、母親が悩んでいる子供を見守る以上に優しくわたしたちを見守っておられる。……神は困惑と苦悩のうちにある者の友、悩んでいる者の保護者、わたしたちの目には見えない幾千もの危険から守って下さるお方である。(ビュー・アソ・バッド 1888年9月18日)

神はすべての住居にお住みになる。神は、わたしたちの語ることばや、ささげるすべての祈りを聞き、あらゆる人の悲しみと失望を味わい、わたしたちが父母や姉妹や友や隣人に対してどのような扱いをするかと注意しておられる。神はわたしたちの必要に関心を寄せられる。そして神の愛とあわれみと恵みとは、わたしたちの必要を満たすためにたえず流れ出ている。……神のご配慮のうちにわたしたちは……やすらかにいこうことができる。(祝福の山 131, 132)

神は弱い者を助け、力のない者を強くされる。試みや争いや困窮が最も大きい所で、神にあって練達した者はいつそうの保護を受けるに違いない。激しい戦いの中で働いている者たちに、神はこう言われる、「主はあなたの右の手をおおう陰である」。

わたしたちの主は、わたしたちの必要にご自分を適応させられる。彼はわたしたちの右の手をおおう陰である。彼は、わたしたちの必要をすべて満たす用意をされて、わたしたちのそば近くを歩かれる。彼は、喜んで神への奉仕についている人々のごく間近におられる。彼はすべての人の名を知っておられる。ああ、わたしたちには、キリストのなんと優しい愛の保証があることか。(SDA バイブル・コメント [E・G・ホワイト] 3 卷 1153)

あらゆる良い贈り物、 あらゆる完全な賜物は神からである

「あらゆる良い贈り物、あらゆる完全な賜物は、上から、光の父から下って来る。父には、変化とか回転の影とかいうものはない。」(ヤコブ 1:17)

神の力は心臓の鼓動、肺活動に、また体のすみずみにまで何千もの管を通じて循環する生きた流れにあらわされている。わたしたちは生きている一瞬一瞬を、生命を快適に保つあらゆることをこのお方に負っている。人を他の被造物よりも高めている力と能力は創造主の与えて下さった才能である。このお方はわたしたちに恩恵を十分に与えて下さる。わたしたちは食べる食物、飲む水、着る衣服、呼吸する息をこの方に負っている。神の特別な摂理がなければ、空気は伝染病や毒で満たされているはずである。神は豊かに恩恵を施し、保たれる方である。地を照らし、自然界に光彩を添える太陽、月の不可思議で厳粛な輝き、明るい星のきらめく大空の荘厳さ、土地の元気を回復し植物を繁らせる雨、あらゆる豊かな自然の尊い産物、高い木々、茂みや草木、揺れている穀物、青い空、緑の大地、昼と夜の変化、移りかわる季節、これらはみな人に創造主の愛を語っている。主は天と地にあるこれらすべてのしるしで、わたしたちをご自分に結びつけてこられた。(ビュー・アンド・ヘルド 1888 年 9 月 18 日)

わたしたちは主にいのちのパンとキリストの義の衣を求めるのと同じように、パンや衣服などこの世の物を主に申し上げることができる。……天においても地においても、いっさいの権威を持つおかたからくる賜物は、神の子らのために貯えられている。その賜物は非常に尊いもので、高価な犠牲である贖い主の血潮によって与えられたものである。それはまた人の心のどんな願いでも満足させ、永遠に続くものであつて幼な子のように神のもとにくるすべてのものが受けてその祝福にあずかるものである。神の約束をあなたに与えられたものとして受け、それを神ご自身のお約束のことばとして神の前に申し上げるがよい。そうすれば、あなたは喜びに満ちあふれるであろう。(祝福の山 166, 167)

神はわたしたちに対して 愛を明らかにされる

「神はそのひとり子を世につかわし、彼によってわたしたちを生きるようにして下さった。それによって、わたしたちに対する神の愛が明らかにされたのである。」(ヨハネ第一 4:9)

創造の力が現わされているものは、すべて、神の無限の愛の表現である。神の統治は、すべての造られたものへ、豊かな祝福を与えることを意味する。詩篇記者は言っている。「あなたの手は強く、あなたの右の手は高く、義と公平はあなたのみくらの基、いつくしみと、まことはあなたの前に行きます。祭の日の喜びの声を知る民はさいわいです。主よ、彼らはみ顔の光の中を歩み、ひねもす、み名によって喜び、あなたの義をほめたたえます。あなたは彼らの力の栄光だからです。……われらの盾は主に属し、われらの王はイスラエルの聖者に属します。」(詩篇 89:13-18)

まず、反逆が天で始まったそのときから、ついに、それがくつがえされて、罪が完全に根絶されるまでの善悪の大争闘の歴史もまた、神の不変の愛の実証である。……愛の律法が神の統治の基礎であるから、すべての知的存在者の幸福は、その偉大な義の原則に彼らが完全に一致することにかかっている。神は、造られたすべてのものから愛の奉仕、すなわち、神の品性を理解することによってわきおこってくる崇敬を受けることを望まれる。……造られた者がすべて、神に対する愛の忠誠を了承しているうちは、神の造られた全宇宙に完全な調和があった。創造主のみこころをなすことが、天の軍勢の喜びであつた。神の栄光を反映することと神への賛美が、彼らの楽しみであつた。そして、彼らが神を最高に愛していた間は、互いの間の愛も信頼と無我の精神に満ちていた。そこには、天の調和を破るものは何一つなかった。(人類のあけぼの上巻 2-4)

すべて主を呼ぶ者に主は近い

「すべて主を呼ぶ者、誠をもって主を呼ぶ者に主は近いのです。」(詩篇 145:18)

神はわたしたちが顔を義の太陽に向け続ける時喜ばれる。……わたしたちが悩み、心配に押しつぶされる時、主は近くおられ、わたしたちの思いわずらいをすべてご自分にわたすようにと命じられる。主はわたしたちを心に掛けておられるからである。……

主は悩んでいるすべての子らのところへ来られる。危険な時には彼らの避難所であり、悲しんでいる時には彼らに喜びと慰めを差し出される。わたしたちは、生ける水の源である贖い主から離れて、水を入れておくことのできない自分自身の壊れた水ためを作るのだろうか。危険が近づく時、わたしたちは自分と同じように弱い人々に助けを求めるのだろうか、それとも救う力を持ったお方のところへ避難するのだろうか。このお方の腕は大きくひらかれており、「すべて重荷を負うて苦勞している者は、わたしのもとにきなさい。あなたがたを休ませてあげよう」と恵み深く招いておられる。……

わたしたちがこのお方を愛し、また従うことを拒むときにわたしたちに言い訳を許さないのは、このお方の偉大さや恐るべき威厳、また比類のない力が現われたからではない。それはこのお方が示してこられた愛と憐れみ、忍耐、寛容であり、それが、自分の生涯に自発的な奉仕をしない人々に不利な証をたてる。心と魂と思いを込めて神に立ち帰る者はこの方のうちに平安な安らぎを見出す。……

このお方はわたしたちがまさに必要としているもの、わたしたちが負うことのできるものが何であるかを知っておられ、わたしたちにもたらされるあらゆる試練やテストに耐えるための恵みを与えて下さる。わたしの絶えまない祈りは神にもっともっと近づくことである。(原稿 20、1892 年)

わたしたちの霊的、道徳的性質の必要に応えるためにあらゆる備えがなされている。……光と不死は主イエス・キリストを通して明らかにされた。イエスはわたしたちの前にだれも閉じることのできない門を開いておいたと仰せになった。その開いた門はわたしたちの前にあり、キリストの恵みを通して少し開いている門から憐れみ深い光が流れ出ている。(ユース・インストラクター 1893 年 12 月 14 日)

み父と共に歩んだ神の子エノク

「エノクは神とともに歩み、神が彼を取られたので、いなくなった。」(創世記 5:24)

エノクは、彼が65歳になって息子を生んだとされる。彼は、その後300年の間神と共に歩んだ。……エノクは、彼の長男の誕生後、さらに高い経験に達し、神とさらに密接な関係にはいつていった。彼は神の子として、自分に与えられた義務と責任を、もっと深く自覚した。(人類のあけぼの上巻 80)

エノクの正しい生活は、彼の周りの邪悪な人々とは著しい対照をなしていた。彼の信心、彼の純粋性、彼の不動の完全性は、神と共に歩んだ結果であった。一方、世の邪悪は、人類を欺く者と歩む結果であった。エノクが落ち度のない義の生活を送った時代ほど、道徳的暗黒が濃い時代はなく、今後も決してないであろう。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 1 巻 1088)

エノクは、活動的の生活を送りながらも、変わることなく神との交わりを保った。仕事がふえ、忙しさが増すにつれて、彼の祈りは、ますます絶え間なく、熱心になっていった。……彼は、しばらく人々の間にいて、教えと模範によって彼らのために働いたあと、ただ神だけが与えることのできる天来の知識を飢えかわくように求めて、人を避けて孤独の時を過ごすのであった。エノクは、こうして、神と交わることによって、ますます神のみかたちを反映するようになった。彼の顔には、イエスのみ顔に輝く清い光が輝いていた。彼が、こうした神との交わりからもどってきたときには、神を信じないものさえ畏敬の念に打たれて、彼の顔に押された天のしるしをながめた。(人類のあけぼの上巻 83)

わたしたちも、神と共に歩くべきである。そうする時、わたしたちの顔は神の臨在の輝きによって明るくされるであろう。そしてわたしたちがお互いに会うとき、わたしたちは神の力についてこう言うであろう、「……み言葉はすばらしい」と。……最終時代において天に移される人々は、地上で神と親密に交わる人々である。(SDA バイブル・コメンタリ [E・G・ホフ・コメント] 1 巻 1087)

イエスはみ父の本質の真の姿

「御子は神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であって、その力ある言葉をもって万物を保っておられる。そして罪のきよめのわざをなし終えてから、いと高き所にいます大能者の右に、座につかれたのである。」（ヘブル 1:3）

キリストとはどなたであろうか。この方こそ生ける神のひとり子であって、神にとって、思想を表現する言葉、すなわち聞こえるようにされた思想であり、キリストは神の言葉である。キリストはピリポに「わたしを見た者は父を見たのである」と言われた。その言葉は神のみ言葉のこだまであった。キリストは神と同じであられ、神の栄光の輝きであり、神の本質の真の姿であった。（ユース・インストラクター 1894 年 6 月 28 日）

個性ある方として神はご自身を御子の内にあらわされた。み父の栄光の強く輝く方であり、「神の本質の真の姿」であるイエスは、人としての姿をとって地上でくらされた（ヘブル 1:3）。このお方は個人的救い主として世に来られ、個人的救い主として天に昇り、個人的救い主として天の宮廷でとりなしをしておられる。神のみ座の前で「人の子のような」方がわたしたちのためにとりなしをしておられるのである（黙示録 1:13）。

世の光であるキリストは、ご自分の神性という目くらむほどの輝きを覆って、人々が焼き尽くされることなく自分たちの創造主を知ることができるように、人々にまじって人として生きるために来られた。……キリストは神が人々に知ってほしいことが何であるかを教えるために来られた。上なる天において、また地上でも広大な大海の中でもわたしたちは神のみ手のわざを見る。すべての被造物は神の力、その知恵と愛を証している。しかし星や大海や大滝からだけでなく、わたしたちは神の本質がキリストのうちにあらわれているので、これを学ぶことができる。（教会への証 8 巻 265）

キリストはたえず他の人々に、憐れみぶかく、優しい同情心にあふれた思いやりをもって神のご品性をあらわし、神と人への奉仕にたずさわり続けられた。……神は、ご自分に従う者たちが、イエスが人性をとっておられた時のようであるようにと思っておられる。救い主の力強さのうちに、わたしたちはこの方が過ぎた純潔と高潔の生活をしなければならない。（教会への証 8 巻 286, 289）

罪を犯すなら、 イエスは天でわたしたちのために嘆願して下さる

「わたしの子たちよ。これらのことを書きおくるのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためである。もし、罪を犯す者があれば、父のみもとには、わたしたちのために助け主、すなわち、義なるイエス・キリストがおられる。」(ヨハネ第一 2:1)

主エホバは、救いの計画が、ご自身の愛を与えるだけで完成するとは思われなかった。この御方は、ご自身が指名して、わたしたちの性質を身にまとった弁護者を祭壇の上に置かれた。キリストの務めは、わたしたちの仲保者として、神にわたしたちをその方の息子、娘として紹介することである。

キリストはわたしたちの身代り、また保証人であり、誰をも無視することはないと誓っておられる。この御方の服従から生ずる完全な従順という尽きることのない財源がある。天にはこの方の功績、克己、そして自己犠牲がご自分の民の祈りと共に捧げるための香として大切に保存されている。罪人の心からのへりくだった祈りが神のみ座に上る時、キリストはご自身の完全な服従の生涯という功績を、その祈りに混ぜられる。わたしたちの祈りはこの香によってよい香りとなる。キリストはわたしたちのために仲保をすると誓われたので、み父はいつも御子の言葉を聞いてくださる。

これは信心の奥義である。キリストは人性をとり、へりくだった生涯によって、神の道德上の価値という計りの中で人を高めなければならなかった。そのためには、人性を神のみ座にたずさえて行き、そこでみ父が天使たちに与えておられる非常な名誉をご自分の子らにも与えて下さるようにと、み父に子らを示される。この名誉は全天の驚異であり、み使いたちもうかがい見たいと願っている事であって、罪人の心を溶かす愛である。(原稿 21、1900 年)

破滅にさらされた人間を永遠の滅びから救うためには、ご自分の魂を死に至るまで注ぎ出すこと以外考えることのできなかったお方は、自分で自分を救うことはできないことに気づいている魂をみな、憐れみと深い思いやりをもって見ておられる。(世界総会冊子 4、1899 年)

キリストはあなたの助け主であられる。この力強い神の愛を心から感謝してキリストのみ手を取り、強く握りしめなさい。そのみ手はあなたが握ることができるよりもっと強くあなたの手を握りしめることができる。(手紙 182、1901 年)

御子を信じるとは永遠の命を意味する

「御子を信じる者は永遠の命をもつ。」(ヨハネ 3:36)

魂がキリストに屈服するとき、新しい力が新しい心を占領する。人が自分自身ではなしとげることのできない変化が行われる。それは超自然の働きであって、人の性質に超自然の要素をもたらす。キリストに屈服した魂は、キリストご自身のとりでとなり、キリストはそれをそむいた世の中に保たれる。キリストはそこ中でご自身の権威よりほかの権威がみとめられないように望まれる。このように天の勢力によって占領された魂はサタンの攻撃に攻め落とされることがない。(各時代の希望中巻 41)

キリストはあらゆる天の感化を分け与える用意をしておられる。このお方は人に押し寄せるあらゆる誘惑と一人一人の能力を知っており、その人の力を量られる。現在と将来を見通し、その人の思いの前に直面しなければならない義務を示し、通常の世の事柄にあまりに夢中になって、永遠の事柄が考察からはずれることのないようにと力説される。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 5 日)

神の恵みの賜物はキリストによって、すべての者に分け隔てなく与えられている。人間が滅びるのは、自分自身の選択によるのであって、そのように選ばれたのではない。神は、み言葉の中に、すべての魂が永遠の命に選ばれる条件をお示しになった。それは、キリストを信じる信仰によって、神の戒めに従うことである。神は、神の律法と一致した品性を選ばれるのであるから、だれでも神の要求される標準に達する者は、栄光の王国にはいることができる。キリストご自身はこう言われた。「御子を信じる者は永遠の命をもつ」。(人類のあけぼの上巻 226, 227)

その方の内にすべての完全が集中し、真に天の至高者でありながら、わたしたちが墮落したにもかかわらず愛して下さるお方と同一視されるとは、なんと高められた立場であろうか。言葉ではこれを言い表わすことはできない。わたしたちのためにこのお方は王衣を脱ぎ、天のみ座から降りてきて、ご自分の神性を人性でおおってへりくだり、罪以外ではわたしたちのうちの一人のようになられた。それはこのお方の生涯と品性が、すべての人が真似るべき型となって、人が永遠の命という尊い賜物を受けることができるためであった。(ユース・インストラクター 1886 年 10 月 20 日)

わたしたちが誘惑される時 イエスは助ける方法を知っておられる

「主ご自身、試練を受けて苦しまれたからこそ、試練の中にある者たちを助けることができるのである。」（ヘブル 2:18）

最も恐ろしい誘惑に耐えながらも、キリストは失敗したり落胆したりはされなかった。このお方はわたしたちのために戦われたが、もしたじろいだり、誘惑に負けたりされたなら、人類家族は失われてしまったはずである。

聖書は誘惑の荒野におけるサタンとの闘争について簡単にふれているだけであるが、これは厳しい試練であった。キリストはわたしたちのためにテストと試練を受けて勝利者となられた。キリストの誘惑に抵抗する力をほとんどの人が悟ることができないでいる。失われた世界の運命がかかっていたその厳しい試練について、人はなんとほとんど理解していないことであろうか。世の贖い主は血肉に対してではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対して戦われた。全天はこの戦いに関心を示し、勝利する力があり、救う力のある方の上に助けが用意されていたので、どれほどの喜びと歓喜が天にあったことであろうか。

キリストがご自身をアダムの立場におき、アダムが失敗したそのテストに耐えられた時これはなんと大きな事件であったであろうか。この行為によって、人は神の恵みによりイエスの功績を通して、自分自身として勝利することができる。キリストが勝利者であられたように、神のみ名によって、恵みを通して人は勝利者になることができる。神性と人性はキリストの内にあって一つとなった。だから人が勝利者になることのできる唯一の方法は、神性にあずかることを通してである。……神性と人性はキリストの精神を持つ者の中で入り混じる。使徒パウロは「イエスは……あわれみ深い忠実な大祭司となって、……あらゆる点において兄弟たちと同じようにならねばならなかった」と記している。……「この大祭司はわたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。」（ユース・インストラクター 1892 年 6 月 30 日）

わたしたちの敵よりも、もっと力強く権威ある方

「栄光の王とはだれか。強く勇ましい主、戦いに勇ましい主である。」(詩篇 24:8)

キリストは全世界を救うほど強く、すべての者を望まれた。この方は人間が失われなければならないという思想に耐えることができなかった。サタンの力によって死んで横たわっているすべての人を救うことができないゆえに、ラザロの墓で涙を流された。このお方は、多くの人々のために、神に忠誠を尽すために戻ってくるという特権を行使しようとしないうすべての者のためにさえ、ご自身を贖いの供え物とされた。……ラザロを死からよみがえらせた時、その生命のためにご自分がカルバリーの十字架で身代金を支払わなければならないことを知っておられた。救おうとされたすべての行為はこの方に最も深い屈辱をもたらすものであった。すべての人間のために死を味わわねばならなかった。

地上における生涯でキリストは完全な品性を発達させ、み父の戒めに完全に服従された。人間の姿をとってこの世に來られ、律法に従い、人間の病いや悲しみ、また罪をご自分が負うことを彼らに表しつつも、ご自分は罪人とはならなかった。パリサイ人の前で「あなたがたのうち、だれがわたしに罪があると責めうるのか」と言うことがおできになった。罪の汚れは一つとしてこの方に見出されなかった。世の前にしみのない神の小羊として立たれた。

ご自分の気高い純潔という光によって、世の贖い主は、人類家族が神の律法に違反することにより、もたらされた病いに苦しんでいるのを見ることがおできになった。この方はあらゆる苦しみの源にさかのぼることができた。あらゆる事例の中に、苦しんでいる者、また悔い改めない罪人の恐るべき最後を読みとられた。彼らが落ち込んだ落とし穴から、彼らを救い出すことができるのはご自分だけであることを知っておられた。この方だけが罪人の足を正しい道に立たせることができるのであった。この方の完全だけが彼らの不完全のために役立つことができ、この方だけが彼らの裸をご自分の義というしみのない衣でおおうことができた。……キリストは救うのに力強い方であり、助けは力ある方に授けられている。このお方は人を人性の長い腕で抱きかかえ、ご自分の神性で全能のお方をしっかりとつかんでおられる。(エス・インストラクター 1898 年 12 月 29 日)

真理の体現である方

「わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける。」(ヨハネ 18:37)

キリストのはっきりと分る卓越は、へりくだりの道を一步一步降りて行かれた時でさえ、そのみ言葉に驚くほどの力を与えた。なんという教訓をこの方は与え、なんという権威をもって、高い地位にある人々の罪を譴責されたことであろうか。キリストにとって真理は真理であり、悩むことはなかった。ご自分が真理の創始者であったからである。「わたしは真理についてあかしをするために生れ、またそのためにこの世にきたのである」と仰せになる。……このお方は真理と聖潔の体現であられた。神の会議に出席し、永遠に生きておられるお方の至聖所に住まわれる方が、ご自分の知っていることについて話しておられた……が知識も霊的理解力も高いと主張していた人々が、この方の真意を悟るのに失敗し、み父とみ子により永遠にわたって展開されていた真理を、彼らは無知のゆえに非難する批評家の立場をとった。

十字架につけられたキリストは絶えず魂をご自分に引き寄せておられる。その一方でサタンは、魂がキリストのみ顔の光のなかを歩むことができないよう、慈しみと思いやり深いキリスト、その無限のあわれみ深く限りのない愛にあふれたキリストを見ることができないようにと、彼らをこのお方から引き離している。サタンは、キリストの内におられる神がはっきりと見えないようにと、魅力的な世の誘惑を差し出して自分を隠す。しかしキリストはご自分を信じる者が誰でも救われるために来られた。太陽の輝く光線が花の美しさを完全にまた釣り合いをとる助けとなることができるので、花が太陽の方を向くように、そのようにキリストに従う者は義の太陽に顔を向けなければならない。天の光が彼らに注がれ、その品性を完全なものにし、神の事柄において深い、また不変の経験を与えることができるためである。わたしたちが人間の努力を神の恵みに結びつけないかぎり、キリストを通してわたしたちの届く範囲にもたらされている祝福を理解することはわたしたちの能力を越えている。(ユース・インストラクター 1898 年 9 月 22 日)

たえず前におられるので、動かされることはない

「わたしは常に主をわたしの前に置く。主がわたしの右にいますゆえ、わたしは動かされることはない。」(詩篇 16:8)

魂を圧迫する思いわずらいのただ中に、あらゆる苦境からわたしたちを助け、わたしたちの不安をすべて取り除くことのできる唯一人の方がおられる。わたしたちは心配ごとをすべてイエスにあずけ、この方が臨在しておられることを心にとめて、この方と心を通わせるように自分を向けなければならない。神を思い続けているべきである。そうすればわたしたちが弱い時この方はわたしたちの力強さとなり、わたしたちが無知の時にはわたしたちの知恵となり、わたしたちがもろい時にはわたしたちの忍耐強い力となられるであろう。

わたしたちはイエスをわたしたちの所にまで引き降ろすために天に上る必要もなければ、この方を高めるために深みに入る必要もないと保証されている。このお方はわたしたちの右におられて、その目はたえずわたしたちに注がれているからである。主がわたしたちの相談相手、また導き手として、わたしたちのすぐそばにおられることに、わたしたちはたえず気づこうと努めるべきである。これが神に対する信頼を持つことのできる唯一の方法である。

わたしたちが聡明な信仰を持ち、イエスとの思慮深い友情を保つために、思いを教育し訓練する必要がある。神と自分の魂との間の友情を大切に続けるかぎり、このお方から離れたり、離れて歩いたりすることはない。自分の周囲にいる人々と友になり、人間に信頼すると、わたしたちの愛情は礼拝の真の対象からそれてしまう。わたしたちは救い主に対する愛をそごような冷たさを許してはならない。このお方との親しい交わりを持ちたいのなら、主をたえず自分の前におき、崇敬する友として信頼し、このお方に第一位の愛情を捧げなければならない。このお方の比べることのできない魅力について語り、たえずイエス・キリストについてのより良い知識を持ちたいという願いを養うべきである。その時この方のみ霊は生活と品性を支配する力を持つ。……人が自分の右にキリストのご臨在を必要とする時があるとすれば、それは今である。……わたしたちは救いの将に絶えずそばに居ていただく必要がある。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 19 日)

神の子はみ霊に導かれる

「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である。」(ローマ 8:14)

聖霊は個性をもっておられる。わたしたちが神の子であるという証を、わたしたちの霊と共に負われるからである。この証が負われる時、その証は証自身の証拠を伴う。そのような時にわたしたちは自分が神の子であることを信じ確信する。(伝道 616)

主は天来の賜物を受けようとするすべての者に与えるために、あふれるばかりの恵みを持っておられる。聖霊は、神が委ねられた能力をキリストの奉仕の中に持ち込み、人間が熱心に改変を願う割合に応じて、人を聖なる型であるキリストに型どって形造られる。(ユース・インストラクター 1894 年 7 月 5 日)

神のみ霊に導かれることに同意する者は明るく照らされ清められる。彼らは罪が憎むべきものであることと、聖潔の麗しさをはっきり見分ける。自分たちがみ父のひとり子であるキリストと交わるにはまったく価値のない者であることを知りつつ、神の子と呼ばれることを非常に名誉であると思う。キリストはわたしたちをご自分と交わらせることができるようにと、わたしたちの性質を取られた。多くの者を神の息子、娘とするために……肉において苦しめられた。(ユース・インストラクター 1892 年 12 月 8 日)

暗くなっている心に義の太陽の輝く光線を差し込むのはみ霊であり、永遠の真理に目覚めて気づくことにより、人の心を燃え立たせるのもみ霊である。人の思いに義の偉大な規準を示し、罪を悟らせ、罪から救うことのできるただ一人のお方を信じる信仰を抱かせ、この世の滅びゆく事柄から人の愛情を引き離し、永遠の嗣業に人の愛情をとどめることにより、品性を改変する働きをするのはみ霊である。み霊は、人間が王家の一員、天におられる王の子となるのにふさわしくなるように、人を再創造し、精錬し、清められる。(福音宣伝者 286, 287)

わたしたちをすべての真理に導く

「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くとこを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう。」(ヨハネ 16:13)

神の僕はみな聖霊に導かれなければならない。歩む人がその歩みを自分で決めることはできない。しかしながら険しいであろうその道は、わたしたちのために主が跡をつけて下さっているのであるから、わたしたちはそこを歩かなければならない。
(原稿 42、1901 年)

キリストは、ご自分の教会が変えられたからだとなり、インマヌエルの君の栄光を受けつつ、天の光に明るく照らされるようにと備えをしておられる。すべてのクリスチャンが光と平安の霊的雰囲気の中に囲まれることがキリストのご目的である。自己を捨てて、自分の心に聖霊が働かれる場を作り、神にまったく捧げた生涯を送る者の有用さには限りがない。……

初期の弟子たちとまったく同様に、今日のわたしたちにもみ霊の約束がある。神は、ペンテコステの日に救いの言葉を聞いた人々に上からの力を授けられたように、今日の男女にも授けられる。今まさに神のみ霊とその恵みは、神をその言葉によって受け入れ、み霊と恵みを必要としているすべての人のものである。(教会への証 8 巻 19, 20)

日々聖霊のバプテスマを受けることが、子供たちの特権であることを教えてやりなさい。(家庭の教育 59)

神のみ霊の感化のもとにいる人々は狂信的ではなく、静かで堅実であり、思想にも言葉また行動にも無節制ではない。紛らわしい教理が混同している中で、神のみ霊は、真理についての証拠を拒まないで、真理であるお方から来るもの以外の声には耳をかさない人々にとっての導き手であり、盾である。(福音宣伝者 289)

聖なる感化が、真理を通して清められている人々から世界へ出て行かなければならない。……神の事柄をとりあげて、人々にそれを示しつつ、聖霊が人の心に働きかけなければならない。(教会への証 9 巻 40)

聖霊はわたしたちを教える

「あなたがたのうちには、キリストからいただいた油がとどまっているので、だれにも教えてもらう必要はない。この油が、すべてのことをあなたがたに教える。それはまことであって、偽りではないから、その油が教えたように、あなたがたは彼のうちにとどまっていなさい。」(ヨハネ第一 2:27)

教え、啓発するのは聖霊ご自身である。最も力強いみ言葉の説教、聖書の朗読も、み霊が人と共に、また人を通して働かないかぎり、品性を変え、魂を救うことはできない。計画や工夫は、自己に注意を引きつける性格のものにならない。み言葉は人間のうちにある力であり剣であるが、その生きた力のある聖霊が、心に感化を及ぼす力である。「彼らはみな神に教えられるであろう。」心の中に光を差し込まれるのは神である。……神がわたしたちのためにほとんど何もすることができないのは、聖霊の中にある生きた力が人間と結びつかなければならないことを、わたしたちが忘れるからである。原稿 115 a 1897 年)

わたしたちが受ける特権のある大いなる真理をもって、聖霊の力のもとで、わたしたちは生きた光の通路となるべきであり、またなることができる。その時天国をめざして、その報いが約束されている天国を霊的に激しく襲う者はみな、約束の虹を見つつ、悔いにくずおれた心でひざまずき、恵みのみ座に近づくことができる。わたしたちはヤコブのように力づくでそれを勝ち取ろうとする。その時わたしたちのメッセージは救いに至らせる神の力となる。わたしたちの嘆願は熱心さにあふれ、自分の大いなる必要を充分に自覚する者となる。そしてしりぞけられることはない。真理は生活と品性にあらわされ、神の祭壇からの燃えている炭がふれた唇で表現される。この経験がわたしたちのものとなる時、非常に大切にしていたあわれな安っぽい自己から解放される。心から利己心というさびさせる力を取り払い、心は神への賛美と感謝に満たされる。わたしたちはキリストを誉れある方にした主、あらゆる恵みの神をほめたたえる。そして主はわたしたちを収穫の畑における鋭い鎌のように用いつつ、わたしたちを通してその力をあらわされる。(レビュ・アンド・ヘルド 1899 年 2 月 14 日)

聖霊は知恵と悟りをもたらす

「その上に主の霊がとどまる。これは知恵と悟りの霊、深慮と才能の霊、主を知る知識と主を恐れる霊である。」(イザヤ 11:2)

聖霊があなたに真理を開かれる時、あなたはもつとも尊い経験をしっかりと胸にいだき、あなたに示された慰めの数々を他の人々に語りたいと切望する。彼らと交際するとき、あなたはキリストの品性や働きについて何か新しい思想を伝えるであろう。あなたは主イエスのあわれみ深い愛についてあなたに示され、それを主を愛する人にも愛さない人にも伝えるようになるであろう。

「与えよ。そうすれば、自分にも与えられるであろう」。なぜなら神のことは「園の泉、生ける水の井、またレバノンから流れ出る川である」からである。一度キリストの愛を味わった心は、もっと深く飲むためにたえず呼び求める。そして与えるにしたがって、より豊かに、より潤沢に受けるのである。魂に対する神の啓示はすべて、知る能力と愛する能力を増し加える。魂は「もっとあなたを」と叫びつづける。すると、聖霊はいつも「さらに豊かに」と答えて下さるのである。というのは我らの神は、「わたしたちが求めた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さる」ことを喜ばれるからである。失われた人類の救いのためにご自身をむなしくされたイエスには、聖霊が限りなく与えられた。同じように、主が内にお住まいになれるように全心をささげる時、キリストに従うすべての者に聖霊が与えられるのである。わたしたちの主ご自身が、「み霊に満たされ」なさいと命令されたが、この命令は成就する約束でもある。キリストの中に「すべての満ちみちた徳を宿らせ」、「そしてあなたがたは、キリストにあって、それに満たされ」ることは父なる神の喜ばれるところであった。

地を生きかえらせる雨のように、神は惜しまずに愛を注いでこられた。神はこう仰せになっている。「天よ、上より水を注げ、雲は義を降らせよ。地は開けて救を生じ、また義をも、生えさせよ。」……「わたしたちすべての者は、その満ち満ちているものの中から受けて、めぐみにめぐみを加えられた。」(祝福の山 24 - 26)

御霊の実を分け与えられる

「御霊の実はあらゆる善意と正義と真実の中にあるからである」(エペソ 5:9 欽定訳)

わたしたちは、自分で自分の生活と品性を形造って、栄光の門の内にはいれるようにすることができる、と考えてもよいだろうか。いいえ、そうはできないのである。わたしたちはいつも、わたしたちにも子供たちにも働きかけておられる神のみ霊に依存しているのである。

もし家族の中に何か変わった事態が見られるようなときには、親自身が全く神に献身してごらんなさい。そうすれば神は方法や手段を講じてくださり、家庭の中に変化が起きるようにしてくださる。(家庭の教育 170)

憐れみ深い贖い主は愛と思いやりをもってあなたを見ておられ、あなたの祈りを喜んで聞き、あなたが人生の歩みにおいて必要とする助けを与えて下さる。愛と喜び、平安と寛容、優しさと信仰そして愛はクリスチャン品性に不可欠である。これらの尊い恵みはみ霊の実であり、クリスチャンの冠、また盾である。……なにもものもこれ以上完全に満足させることはできない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1877年11月29日)

もしわたしたちがキリストの霊……を受けるならば、自然に成長して、実を結ぶのである。あなたの品性にはみ霊の実が熟し、信仰は増し加わり、確信は強固になり、愛は完成される。そして、すべての純真なこと、すべての尊ぶべきこと、すべての愛すべきことにおいて、ますますキリストのみかたちを反映するようになるのである。……

この実は、決して滅びうせることがなく、永遠の命に至る収穫をもたらすのである。

「実がいと、すぐにかまを入れる。刈入れ時がきたからである。」キリストは、ご自分の教会の中に、ご自身をあらわそうと熱望しておられる。キリストの品性が完全にキリストの民の中に再現されたときに、彼らをご自分のところに迎えるために、主はこられるのである。(キリストの実物教訓 47)

み霊は人を生かす

「人を生かすものは霊であって、肉はなんの役にも立たない。わたしがあなたがたに話した言葉は霊であり、また命である。」(ヨハネ 6:63)

神の聖霊だけが理解力を目覚めさせるのである。(手紙 49、1896 年)

へりくだって神に仕え、その導きと恵みを期待して待つ者にだけ、み霊は与えられる。信仰によって求めるこの約束された祝福は、それに付随した他のあらゆる祝福をもたらし、キリストの豊かな恵みのゆえに与えられる。そしてこのお方は、あらゆる魂に、受ける能力に応じて授ける備えをしておられる。

み霊が分け与えられるというのはキリストの命が分け与えられることである。神についてこのように教えられた者だけ、聖霊が内住して働いている者だけ、その生涯にキリストの生涯があらわされている者だけが、救い主の真の代表者として立つことができる。

神は人があるがままで受け入れ、人がご自分に自分自身を委ねるなら、ご自分の奉仕のために彼らを教育される。魂に受け入れられた神のみ霊はその能力をみな活気づける。聖霊の導きのもとに、神にまったく捧げられた心は調和のとれた発達をし、神のご要求を理解し、成し遂げるために強められる。弱く揺れ動く性格は強く堅固な品性へと変わる。絶え間ない献身はイエスと弟子たちの間のつながりを非常に密接にするので、クリスチャンは品性が主のようになり、ますますはっきりとしたまた広い視野を持つ。その識別力はますます鋭くなり、その判断はもっと調和のとれたものとなる。彼は義の太陽の生命を与える力で非常に活気づけられるので、神の栄光のために多くの実を結ぶことができる。(福音宣伝者 285, 286)

信者は一つの心、一つの思いとなり、主はそのみ言葉を地上で力強いものとされる。新しい町や村、また地域にみ言葉が入っていく。教会は起きて、光を放つ。その光がのぞみ、主の栄光がその上にのぼったからである。……もし聖霊がわたしたちの内に住まわれるなら……わたしたちはイエスを掲げるのである。(ビュ・アンド・ヘルド 1890 年 12 月 23 日)

耳を傾ける者に語られる

「耳のある者は、御霊が諸教会に言うことを聞くがよい。」（黙示録 2:29）

人がキリストによく似た者になることができるというのはなんと人間の理解力を越えたことであろうか。しかしながら、聖霊は生来の目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、わたしたちの心が悟ることのできないことを見ることができるようにと、霊的視力を強めることができる。すべてのことを、神の深い事柄ですら探るみ霊によって、筆や声では表現できない尊い真理があらわされている。（手紙 49、1896 年）

どんな人でも、聖霊に服従するならば、新しい生命の原則が植えつけられ、失われた神のみかたちが人類の中に回復されるのである。

しかし、人間は、意志の力によって、自分を変えることはできない。人間には、この変化を起こさせる力がない。パン種—全く外部からのもの—が、粉の中に入れない限り、希望する変化が起らないのである。そのように、罪人が、栄光の王国にふさわしい者とされる前に、神の恵みを受けなければならない。世のどんな教育も文化も、墮落した罪の子を、天の子とすることはできない。どうしても神からの更新力が必要である。この変化は、聖霊によってのみもたらされる。すべて救われることを望む者は、地位の高低、貧富の差別なく、聖霊の力に従わなければならない。（キリストの実物教訓 71）

義の太陽の輝く光が差し込んだ心はみな、声にも思いにも品性にも神のみ霊の働きをあらわす。組織は熟練した手で油をさし、導かれているかのように動く。働き人の精神が二本のオリーブの枝から油を受ける時、摩擦は少なくなる。聖なる感化が、親切で優しい愛と励ましの言葉で他の人々に分け与えられる。（教会への証 7 巻 195,196）

数えきれないほどの天使が わたしたちを助ける用意ができている

「さらに見ていると、御座……のまわりに、多くの御使たちの声上がるのを聞いた。その数は万の幾万倍、千の幾千倍もあつ」た。(黙示録 5:11)

キリストは、父なる神のみもとに昇天されたとき、弟子たちを無力のままに放って置かれなかった。キリストは優勢な敵に対して信仰のよき戦いを戦っている者を助けるために、聖霊をご自分の代表としてまた天使たちを仕える霊としておつかわしになった。イエスはあなたがたを助けてくださるお方であることを、いつも忘れないでください。イエスほどあなたがたの品性の特徴を理解してくださるお方は他にはない。キリストはあなたがたを見守っておられる。キリストのみちびきを心から願うとき、キリストはあなたがたのまわりに善への感化力を与えて、あなたがたに対する神のみこころを成し遂げてくださる。(青年への使命 3)

自分が無であると感じ、救い主の功績に完全に頼る魂ほど、一見無力に見えて、実際には無敵な者はいない。神はこの魂が打ち負かされるままにはせず、そのような人の助けとして天にいるすべての天使を送られるのである。(教会への証 7 巻 17)

天使たちは、神に仕える者で、神のみ前から流れ出る光で輝き、みこころを果たすためにすみやかに飛ぶことのできる翼が与えられているのである。(人類のあけぼの上巻 3)

天使は、最も必要とされる場所におり、また自己と最も困難な戦いをたたかい、最も落胆させられるような境遇のうちにある人々といっしょにいる。(各時代の希望中巻 220)

どの時代にも、天使たちは、キリストに忠実に従う人たちの近くにいた。勝利したいと望むすべての人に対して、おびただしい悪の同盟軍が勢ぞろいするが、キリストは、目に見えないもの、すなわち神を愛するすべての人を救うためにそのまわりに天の軍勢が陣を張っているのを見せたいとお思いになる。天使たちの守りによって、われわれがどんなに目に見える危険や目に見えない危険から守られたかということは、永遠の光のうちに神の摂理が明らかにされるときまで、決してわからない。その時になってわれわれは、天の全家族が地上の家族に関心をもっていたこと、また神のみ座からの使者たちが、日々われわれの歩みにつきそっていたことを知るのである。(各時代の希望上巻 297)

御使は救いを受け継ぐべき人々に奉仕する

「御使たちはすべて仕える霊であって、救を受け継ぐべき人々に奉仕するため、つかわれたものではないか。」(ヘブル 1:14)

神は、救いを受け継ぐべき人々を引き寄せるのがそのすべての働きである御使を持っておられる。……御使たちの働きはサタン力を退けることである。(原稿 17、1893 年)

この天使たちの働きは、この世の住民を純潔で聖であり、汚れのない神の子になる準備をさせることである。しかし人々はキリストに従っていると公言はしても、この奉仕を理解することのできる立場に自分自身を置かないので、天の使命者の働きは困難なものになっている。常に天におられるみ父のみ顔を仰いでいる御使たちは、天国の純潔で聖なる雰囲気のため神のそば近くにとどまっていたいと願っているが、誘惑され試練を受けている魂に、この天来の雰囲気をもたらし仕事がなされなければならない。それによって、主が天の宮廷をこの魂で満たそうと思っておられるその場所に、サタンが彼らをふさわしくない者にすることができなくなるためである。天国にある原則と力は、救いを受け継ぐべき人々のための奉仕において、御使と結合する。(ビュー・アソッド・ヘラッド 1899 年 7 月 4 日)

あなたが自分自身のためにすることのできないことをあなたのために行なう御使たちは、あなたの協力を待っている。キリストの引き寄せる力にあなたが反応するのを待っている。神にまた互いに近く引き寄せられなさい。願いによって、黙祷によって、サタンの代理人たちに抵抗してあなたの意志を神のみ旨の側に置きなさい。あなたが悪魔に抵抗しようと願って、心から祈りを捧げている間に、自分を誘惑から救い出すお方を、あなたはその日の力とするのである。試みられ誘惑され苦しんでいる者のそば近くに来るのは天の御使たちの仕事である。天使たちはキリストがそのために死なれた魂を救うために、長くまた疲れも知らず骨折る。そして魂が自分たちの有利な点を感謝し、自分たちに送られた天来の助力を感謝して、自分たちのための聖霊の働きに反応する時、魂が自分の意志をキリストのみ旨の側に置く時、御使たちは天へ知らせを携えて行く。……そして天軍の中に大いなる喜びがある。(ビュー・アソッド・ヘラッド 1899 年 7 月 4 日)

御使はたえず天のはしごを上り下りする

「時に彼は夢をみた。一つのはしごが地の上に立っていて、その頂は天に達し、神の使たちがそれを上り下りしているのを見た。」(創世記 28:12)

世界というこの小さな点に全宇宙は大いなる関心を示す。……わたしたちは自分の町の忙しい活動にかかわり、込みあつた往来で群衆に混じり、商取引の場所に入り、通りを歩く。そして朝から晩まであらゆることを通して、仕事やスポーツ、快楽が生きるためのすべてであるかのように行動する。すなわちこの世が思いを占めるすべてであるかのように行動する。目には見えない御使たちのことを熟慮する者はなんと少ないことであろうか。

全天は活動に明け暮れ、しかも目には見えない存在について何の思いも持たない人間に強い関心をもっている。……時々天使たちは、目には見えない世界を隠している幕を引き上げる。それによってわたしたちの思いが忙しさやあわただしさから引き戻され、仕事にたずさわっている時も、一人で自分のことを考えている時も、自分のすること、言うことすべてに証人がいることを考えることができるためである。……

この天使たちは仕える霊であり、たえず人間の姿に変装して、見知らぬ人として、神のみ働きにたずさわっている人々と話しあう。さびしい場所で彼らは危険にさらされた旅人の同行者となった。大嵐にもてあそばれる船の中で、危険のただ中で彼らは恐れを和らげ、希望をおこさせる言葉を語ったのである。様々な環境のもとで、多くの人が他世界の住人の声に耳を傾けた。彼らは幾度も軍の長となり、害悪を一掃するために送られた。謙遜な家庭の食卓で食事を共にし、夜の雨露をしのぐ場所が必要な疲れた旅人として、度々あらわれたことがあつた。……

天のみ使いたちはあらゆる良い働きにおいてわたしたちと協力しており、このようにして地は天とつながっているのである。(ビュー・アンド・ヘルド 1898 年 11 月 22 日)

Good Way Series 研究 2-5



教会と残りの民 (V)

b) 神の律法とのつながりにおいて揺れる

神の律法の光において(教会への証 1 巻 361)、軍事に参加することは、とくに戦時においては、預言された分離と大いに関係があります。そのため、これは預言的な背景全体の中で論じられるべき天の一つです。そこにはふるとその原因が含まれています。預言的な背景がなければ、神の律法に影響を及ぼす論争的な主題を吟味することは難しいことです。想像してみてください。比較という方法による場合、検査するために機械が手に入らず、そこから外れた重要な部品の機能を調べるというのがどれほど難しいかということです。

教会としてわたしたちが立っているか、倒れているかは、わたしたちが神の律法に忠実であるかもしくは不忠実であるかによります。E・G・ホワイト姉妹は次のように記しています。「このように、わたしたちは神を認め、またこのお方の律法を、天において、またこのお方の地上の支配を通じて、このお方の統治の基礎であることを認めるのである。このお方の権威は世の前にはっきり区別され、明確に保たれていなければならない。そしてエホバの律法と衝突するいかなる法律も認められてはならない。もし神の取決めを侮辱することにおいて、世がわたしたちの決定やわたしたちの行動に感化を及ぼすことが許されるなら、神の目的は挫折させられるのである。どれほど名目的に良く見えても、もし教会がこの点で揺れるなら、天の書物には教会に対して最も聖なる信任に対する裏切り、キリストの御国に対する背信と記されるのである。」(牧師への証 16, 17)。

神の律法は真の信徒たちを一方の手で結合させ、もう片方の手で自称信徒たちから真の信徒たちを分離する手段です。ですから、「試練がわたしたちのまわりで色濃くなるとき、分離と結合の両方がわたしたちの集団の中で見られるよう

になる。」(教会への証 6 巻 400)。主のしもべは次のように述べています。

「神の律法、すなわち完全な聖潔は、品性の唯一の真の基準である」(神のむすこ娘たち 51)。「このお方の律法は真理である」(今日のわたしの生涯 100)。

危機の時、神の律法に対するわたしたちの忠誠が試されるときに、これが起こることです。

「信徒たちの心のうちに宿る真理は、祝福された幸福な同化へと導く。…純金属と卑金属は、今は混じりあっており、無限の神の見分ける御目だけが彼らの間を確かにはっきり区別できる。しかし聖潔と真理という道徳的な磁石は、相共に純金属を引きよせ、その一方卑しい偽物をよせつけないのである」(教会への証 5 巻 101)。

「まもなく神の民は火のような試練によって試されることになる。そして今は本物で真実に見えた大部分の人々が、卑金属であつたことがあきらかになる。反対によって強められ、確かにされる代わりに、反対、脅迫、虐待によって、彼らは臆病にも反対者の側の立場をとるのである。…今は神の民にとって、原則に真実であることを自ら示すべき時である。キリストの宗教がもっとも軽蔑されるときに、このお方の律法はもっとも蔑まれるときに、そのときにこそ、わたしたちの熱心が最も暖かく、わたしたちの勇気と堅固さがもっとも断固としたものであるべきである。大部分の人々がわたしたちを捨てるときに真理と義を擁護して立つということ、兵士がほとんどいないときに主の戦いを戦うということ—これがわたしたちのテストとなるであろう」(教会への証 5 巻 136)。

「神の律法が無効にされるとき、教会は火のような試練によってふるわれ、わたしたちが予期したよりも大きな割合の人が、惑わしの霊と悪魔の教理に注意を払うようになる」(伝道 361)。

これらの預言的な宣言は、最終的なテストで終結する長い一連の時に及ぶ試練の過程を示唆しています。教会は神の律法に関連して増し加わるテストに直面するとき、迫害と分離をくり返し経験しなければなりません。日曜休業令、すなわち最終テストは、「ドラマの最後の光景」(教会への証 7 巻 141) となります。ドラマが発展していくすべての行程で、その前の行為は、アドベンチストの二種類をはっきりと区別します。彼らは獣の刻印の下で最終的なテストがもたらされるときに互いに真っ向から反対するようになります。預言の霊は次のように述べています：

「当局は宗教の自由を制限する法律を作るであろう。彼らは神だけのものである権利を自分たちのものとするであろう。彼らは神のみが支配されるべき良心を自分たちが強制することができると思うであろう。今でさえそれが始まっている。この働きはおし進められて、ついには越えることのできない限界にまで達するであろう。そのとき神は、戒めを守る忠誠な民のために手を出されるのである」(各時代の希望下巻 94)。

「わたしは神の民の間の神のみ摂理を指し示され、またクリスチャンだと公言する人々を精練し、純潔にする工程によってもたらされる一つ一つの試練は、ある者がかすであることを証明することが示された。いつも精金があらわれるとは限らない。すべての宗教的危機において、ある者は誘惑の下で倒れる。神のふろいは群衆を枯葉のように吹き去る。…苦難や迫害が、み言葉によって生じるとき、多くの人々は腹を立てるのである」(教会への証 4 巻 89)。

「迫害が起こるたびに、それを目撃する者たちは、キリストの側に立つかそれとも反対の側に立つかを決定する。…多くの者がつまづき倒れ、かつて擁護していた信仰を捨てる」(各時代の希望下巻 94, 95)。

「二つの軍隊がはっきり分かれて立つであろう。そしてこの区別は非常に顕著であるため、多くの人々が真理に説得されて神の戒めを守る人々の側に立つであろう。先頭においてこの大いなる働きが、最後の終結する戦いの前に起こるとき、多くの人々が投獄される。多くの人々は命のために都市や町から逃げ、また多くの人々はキリストのために真理を擁護して立ち、殉教者となるのである」(レクテッド・メッセージ 3 巻 397)。

これが準備段階の光景の下で、ドラマの最終場面が刻々と近づいているあいだに起こることです。最後の光景に至るまで次々とつづく段階でのアドベンチストの二種類の経験が次のように述べられています。

「あらしが迫って来るとき、第三天使のメッセージを信じると公言していながら、真理に従うことによって清められていなかった多くの者が、その信仰を捨てて反対の側に加わる。彼らは、世俗と結合し、その精神を抱くことによって、ほとんど同じ見方で物事を見るようになっていく。そして、試練が来ると、彼らはすぐに、安易で一般うけのする側を選ぶのである。かつては真理を喜んだところの、才能ある雄弁な人々は、その力を用いて他の人々を欺き迷わす。彼らは以前の兄弟たちにとって、最も苦い敵となる」(各時代の争闘下巻 378)

不忠実な教会員が教会の少数を代表している間は、彼らが組織からふり出されます。しかし、クリスチャンの奉仕 52 にあったように（前述引用）不忠実な兄弟がはるかに大部分となったときに危機が起こるなら、彼らは神の律法に反して行動し、世の要求に譲歩し、なおも教会の中にとどまり、あたかも異常なことは何もなかったかのように支配するのです。彼らは自分たちがどこで間違えたのかさえ、認めることができません。歴史の証と（各時代の希望上巻 36, 45, 62, 下巻 76; 各時代の希望上巻 285）、それに伴う論理的思考によれば、教派的な背信によって、背信した大多数の指導者や教会員が教会を解散して立ち去り、組織をキリストに真に従う小さな残りの民に任せるように導くとは述べていません。反対に、もし忠実な少数は、あまりに大きな声で「嘆き悲しむ」のであれば、教会を強制的に去らせられるのです。

ばらしいもの一考え、語り、覚える力を組み込んでくださったのです。なによりも最高なのは、神さまが人を愛し、笑い、礼拝できるように造ってくださったことでした。

ついに働きは完成しました。無限のやさしさをもって、神さまはご自分の最高傑作(さいこうけっさく)に最後の仕上げをなさいました。人は自分が造られた地の上に横たわっていました。いちばん最初の人(ひと)が、静かに動かず、うつくしい像(よう)のように命(いのち)というたまものを待って。

そして神さまは「命の息をその鼻に吹きいれられた。そこで人は生きた者となった。」

神さまはどれほど近く人のそばに来られなくてはならなかったことでしょう!とてもとても近くです!神さまの口(くち)が人の口(くち)にふれました!おそらく、神さまが人に口づけ(くちづけ)をされたことでしょう。またおそらく、このお方がご自分の造られたすばらしい、まさにご自分のような、このお方の心(こころ)にいいしいこの被造物(ひぞうぶつ)の上に低くかがまれたとき、このお方の目(め)には愛のなみだ(なみだ)があったかもしれません。

とつぜん、神さまは彼(かれ)にささやきかけるように、ていねいに、やさしく、愛(あい)して、彼(かれ)の中に、ご自分のすばらしい命(いのち)の息(いき)をふきこんでくださったとき、アダム(あだむ)はめざめて、自分の造り主(つくりぬし)のみ顔(みがお)を見入(みい)りました。

白菜ロール

■材料 (3 ～ 4 人分)

白菜 8 枚

◎具材

木綿豆腐	1 丁
しいたけ	2 つ (みじん切り)
玉ねぎ	1 個 (みじん切り)
にら	1 束 (みじん切り)
塩	少々
しょうゆ	大さじ 1/2 杯
片栗粉	大さじ 1

◎煮汁

水	500ml
昆布顆粒だし	小さじ 1 杯
塩	少々
しょうゆ	大さじ 1 杯
しょうが	適量 (うすぎり)

■作り方

1. 豆腐はキッチンペーパーに包み、重石を乗せて水を切ります。
2. 白菜を芯が透き通るまで蒸します。
3. しいたけと玉ねぎをボウルにタネの具材を入れてよく混ぜ、8 等分します。
4. 白菜の芯を手前にして置き、タネの具材をのせてくるとひとまきしてから両端の葉を内側に折り込みしっかりと巻いて、つまようじで留めます。
5. 鍋に煮汁の材料を入れ強火でひと煮立ちさせ、ロール白菜を並べ入れます。アクを取り除き落し蓋をして弱中火で 20 分煮込みます。

さらに煮込めば、とろとろに。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



聖書物語

パート1 第16話
神が人を造られる(II)

神さまは「人をサルのように造ろう」と言うこともおできになったでしょう。しかし、このお方はそのように言われませんでした。また「人をライオンのように造ろう。ただそれより大きく、強く」と言うこともおできになったでしょう。しかし、そんなさいませんでした。このお方は「人をわしのように造って、最も高い山を越えて飛べるようにつばさを与えよう」と言うこともできたでしょう。しかし、そんなさいませんでした。その代わりに、このお方は人をご自身に似た者として造ることをお選びになったのです。このお方は人にこれ以上大きなほまれを与えることはできず、これ以上大きな愛を示すことはおできになりませんでした。

「主なる神は土のちりで人を造」られました。

神さまが動物や鳥を造られたとき、「神はまた言われた、…そのようになった」。それらは、神さまのみ声が聞こえたときに、地からはねて、飛び出てきたのです。しかし、人の場合はちがいました。神さまは人を「かたちづくられ」ました。無限の知恵、無限の忍耐、無限のやさしさをもって、このお方は気高い頭をかたちづくり、やさしい顔を、強い体をかたちづく



られました。そしてこのお方は人にテレビよりももっとすばらしいもの一見る力ーを組み込んでくださいました。ラジオよりももっとすばらしいもの一聞く力、レーダーよりももっとす

(43 ページに続く)